

尼崎市立歴史博物館第18回企画展 工都の原点・尼崎紡績

—修復資料の紹介を中心に—

観覧無料



尼崎紡績創立10周年を記念して煉瓦造工場前で撮影された記念写真。300名を超える従業員が写されており、最前列には小学生くらいの少女の姿も見えています。

明治35年(1902)に作成された尼崎紡績の広告チラシです。3棟の工場と2本の煙突の左側に、煉瓦造2階建の本社事務所が描かれています。

明治33年(1900)竣工の旧本社事務所は、現存尼崎最古の洋風建築であり、現地に残る尼崎紡績唯一の歴史遺産、工業都市尼崎のシンボルです。



令和8年(2026)7月11日(土)
～9月6日(日)

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 月曜日(ただし祝日の場合は開館し、翌日が休館)
会場 尼崎市立歴史博物館 3階 企画展示室

水曜歴史講座

受講無料

日時 8月12日(水) 午後2時～4時
演題 尼崎紡績関連資料の紹介と修復作業について
講師 久保庭萌(当館認証アーキビスト)
金山正子(京都大学人文科学研究所技術補佐員)
会場 当館 3階 講座室
申込 事前申込不要、定員当日先着80名

ギャラリートーク

参加無料

企画展会場で主な展示資料を担当学芸員が解説します。
日時 7月12日(日)、7月26日(日)、8月9日(日)、
8月23日(日)、9月6日(日) 各日午後2時～3時
会場 当館 3階 企画展示室に集合
申込 事前申込不要 定員当日先着各日20名
7月12日(日)・26日(日)はギャラリートークの前後に綿繰り・糸
つむぎの体験ができます。3階の体験学習室へお越しください。

旧尼崎紡績本社事務所見学会

旧尼崎紡績本社事務所は、内部は通常非公開ですが、当館学芸員の案内で特別に見学会を開催します。

日時 7月26日(日)、8月23日(日)
1回目 午前9時30分～10時30分
2回目 午前11時～12時

会場 旧尼崎紡績本社事務所(尼崎市東本町1-50)
敷地には北門から入場してください。
各30分前から玄関前で受け付けます。
自動車は駐車不可、自転車・バイクは駐輪可

定員 各回30名
申込 電話・ファクスで歴史博物館まで
7月26日実施分は7月5日(日)から先着順受付
8月23日実施分は8月5日(水)から先着順受付

参加無料



つながる
うごきだす



〒660-0825 兵庫県尼崎市南城内10番地の2
電話 06-6489-9801(文化財担当)
FAX 06-6489-9800
電車・バス…阪神電車尼崎駅から南東へ徒歩約10分
自動車…玉江橋線開明橋交差点から東へ約500m
隣接する市立城内駐車場(有料)をご利用ください

主催 尼崎市教育委員会
協力 京都大学人文科学研究所附属人文情報学創新センター



尼崎市立歴史博物館と前庭の鉄鋼戦士像(工業の神)



阪神電車尼崎駅から南東へ徒歩約10分

3階の展示学習室では企画展「110年前の尼崎と現在」を開催中です。こちらもぜひご覧ください。

○尼崎紡績の創立

江戸時代の尼崎は城下町でしたが、幕末・明治維新时期には町は疲弊し経済は停滞していました。このような状況を打破し、尼崎の町に再び活気を取り戻すため、尼崎の有力商人や旧尼崎藩士らは、大規模な綿糸紡績工場を尼崎に建設することを考えました。しかし、尼崎の資本力だけでは大工場を創ることは無理でしたので大阪財界を頼ることとし、両者の共同出資により明治22年(1889)に尼崎紡績会社が創立されました。尼崎紡績は辰巳町(現在の東本町)に煉瓦造2階建の大工場を建設し、明治24年(1891)に操業を開始しました。この尼崎紡績の創立が工業都市尼崎の出発点でした。



左の資料は、明治22年(1889)6月11日付で提出された尼崎紡績会社の創立願書で、尼崎紡績に関する最初期の貴重な歴史資料です。昭和34年(1959)、旧尼崎紡績本社事務所が日紡記念館(後、ユニチカ記念館)となった際に同館に展示されました。同記念館が令和5年(2023)に尼崎市の所有となった際、展示されていた歴史資料は尼崎市に移管されましたが、60年以上展示されていたため、保存状態が大変悪い資料がありました。そこで、京都大学人文科学研究所附属人文情報学創新センターの協力を得て修復作業を進めました。本展では、左の資料を初めとする旧ユニチカ記念館展示資料のうち、修復が終了した歴史資料を初公開します。



本展では左の「尼崎紡績会社創立御願」の修復作業の様子を約10分間の動画で紹介しています。京都大学人文科学研究所附属人文情報学創新センターから派遣していただいた資料修復専門家により修復されていく様子を解説付きでわかりやすく紹介しています。展示会場内で常時再生しますので、ぜひご鑑賞ください。

○尼崎紡績の発展

尼崎紡績は、紡績技術者の菊池恭三を中心に技術的に困難とされた細番手・中番手の綿糸生産に注力し、この成功が尼崎紡績発展の要因となり、他社を合併して会社の規模を拡大していきました。1万鍾から始まった本社工場の精紡機数も明治30年(1897)には約4万5千鍾に拡大し、大正6年(1917)には、小田村杭瀬に敷地面積約3万坪の新工場を建設しました。翌大正7年には摂津紡績を合併し、会社の名前を大日本紡績と改めました。大日本紡績は東洋紡績・鐘淵紡績と並んで三大紡績と呼ばれ、日本の紡績業を牽引していく大紡績会社へと発展していきました。



尼崎紡績の製糸販売所の看板です。旧ユニチカ記念館に1点所蔵されていましたが、昨年、九州で新たに1点発見され、当館所蔵となりました。



尼崎紡績本社工場を大正4年(1915)頃に撮影した写真です。手前は左門殿川で、対岸の大阪側から撮影しています。見えている橋は辰巳橋です。

○旧尼崎紡績本社事務所

明治33年(1900)、尼崎紡績本社工場の南西角に煉瓦造2階建の本社事務所が建設されました。昭和20年(1945)6月の空襲で大日本紡績尼崎工場は焦土と化し、ほぼ唯一残ったこの建物は、昭和34年(1959)に日紡記念館(後にユニチカ記念館)として一般公開が開始されました。令和元年(2019)、老朽化を理由にユニチカ記念館は閉館となり、翌年には敷地の処分が検討されました。令和5年(2023)に尼崎市が取得し、以後、建物の応急修理を進めながら建物内部の見学会や敷地でのイベントを開催しています。令和7年(2025)からは敷地の常時公開を開始し、今年度は建物の構造基礎調査と敷地の緑化を進めます。



建物と敷地(昨冬のコスモス開花頃)



1階の昭和天皇玉座の展示



建物中央の木製階段



2階の旧貴賓室